

## COLUMN: 先生紹介 ▶ 浅野 菜摘 (今福教室)

### 先を見据えて勉強することの重要性

はじめまして。今福教室で個別クラスと英検対策講座を担当させていただいております浅野菜摘と申します。

開智総合学院には小学校高学年から中学3年生までお世話になり、先生方の熱心な指導のおかげで志望校であった四條畷高校に合格することができました。

高校では先生方から勉強以外にも様々なことを教えていただきました。今回はその一つである、先を見据えて勉強することの重要性についてお話ししたいと思います。

高校合格後、入学前に登校日があり、その日初めて顔を合わせた担任の先生がクラスの生徒達にこのように仰いました。「皆さん合格おめでとうございます。大学入試まであと3年ですね。」当時の私はこの言葉を聞いて、「まだ高校入試が終わったばかりなのに気が早いなあ。」と思っていました。しかし、大学受験を終え、私は先生が仰った言葉の意味を理解することができました。それは、受験勉強というものは、「受

験生として1年間にする勉強だけを指すのではなく、1・2年生で習得した知識や勉強方法を基礎として進めていくものなので、受験生になる前から、受験を見据えて勉強しなさい。」ということでした。受験までまだ時間がある1・2年生にとっては、受験はかなり先のことであるように感じられるかもしれませんが、皆さんが現在習っている内容は全て入試の試験範囲ですので、受験のための勉強は既に始まっていることとなります。

もし皆さんが日々の勉強をなんとなくしているのであれば、一度自分の受験までの日数を数えてみてください。(大体で結構です。)受験までに自分に残された時間を把握することで、志望校に合格するための時期別の到達目標を設定することができます。そして、その目標を達成するために勉強していると考え、日々の勉強にも意味があるのだと感じる事ができると思います。

少し話がそれますが、登校日の先生の言葉

から3年が経ち、センター試験を終え、2次試験に臨む私達に、学年の先生方が激励会を行ってくださいました。そのうち2人の先生の言葉が印象に残ったので紹介します。一方の先生は、「あつという間に2次試験がくるから、悔いが残らないようにあと少しの間、全力で頑張るなさい。」と仰いました。しかしもう一方の先生は、「2次試験まで約40日ある。1日が24時間あるので、40×24=960時間も残っている。まだまだ出来る事はあるから、最後まであきらめな。」と仰いました。この2人の先生は約40日という期間を全く違うように捉えていました。同じ時間を長いと捉えるか短いと捉えるかは、人それぞれであり、どちらの捉え方が良いと感じるかも人によって異なると思います。どちらの捉え方をしたとしても、重要なことは残りの日数を前向きに捉えるということです。(例えば、長いと感じた人は「これだけの時間があれば苦手教科を克服できる。」、短いと感じた人は「今から受験について意識していこう。」など)

皆さんが今の学年になられて半年ほどが経過したと思います。この秋、これからの勉強について少し先を見据えながら考えてみませんか？

り、「今すぐに指導をしなければ」と気が引き締まりました。

何より、授業をすることが楽しい、生徒と接することが非常に楽しいと改めて感じ、生徒達のためにという気持ちも入院前よりも一段と増している状態です。「塾長先生のままで良かった」と言わせるわけにはいきません。

生徒、保護者の皆様にとって今まで以上に良い教室であるよう、まず私が良いコンディションを維持し、全力で指導に当たって参りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。



感じました。人のモチベーションは考え方だけではなくて、体調にも大きく左右されるものだと感じ、改めて日々の体調管理の大切さを入院期間で学ぶことができました。

また、連休明け直前での急な入院となり、私が担当していたクラスは塾長先生に担当して頂きました。また、諸口教室の運営は坪田先生をはじめとするスタッフ全員のフォローのおかげで大きな問題なく乗り切ってもらい、私も入院期間安心して治療に専念することができました。改めて中間の存在、大切さを実感しました。今度は私が教室のために頑張らなければいけません。

退院後1か月ぶりに教壇に立ち、テスト前に勉強に打ち込む生徒達の顔を見たら、これまで休んでいた1か月のブランクへの不安は消え去



## 高木の ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE 高木 直也 (諸口教室)

### 1か月の充電期間を経て帰ってきました

この度は、大変ご心配をおかけいたしました。夏期講習のど真ん中8月中旬から約1か月の入院期間を経て無事復帰することができました。この1か月、「ちゃんと復帰できるのか」、「自分がいけない間教室はどうなっているのか」、「生徒達はどうなっているのか」という不安と指導ができないもどかしさとの戦いでもありました。体調は、病院のスタッフの方々の素晴らしい治療、看護のおかげで全快し、フルパワーで教壇に立っています。入院期間は治療の日々であるとともに、生活習慣を改善する日々でもありました。その中で自分が如何に自分の体について無知であったかを思い知らされました。食習慣や生活習慣を改善するだけで自分の体調が大きく改善されていくのと併せて、物事に対する興味や関心が湧き、やる気が湧いてくることを実

- 10月上旬から中旬にかけて中間テストが実施されます。みんなで頑張ろう!
- 10月21日(日)は珠算1級～3級の検定試験です。20日(土)は直前練習を行います。時間は授業内で告知します。
- 10月28日(日)は珠算段位検定試験です。10月27日(土)は直前練習を行います。時間は授業内で告知します。
- 11月10日(土)は中学3年生対象に進研模試を実施します。

#### カイチからのお知らせ

#### 生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

# Growing

October 2018  
Vol. 74  
毎月10日発行

【本 部】  
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201  
TEL.06-6939-0008

【今福教室】  
城東区今福西 2-9-20  
TEL.06-6934-4662  
【諸口教室】  
鶴見区諸口 4-14-9-1F  
TEL.06-6912-3984  
【今津教室】  
鶴見区今津南 1-6-2-1F  
TEL.06-6167-9722

【今福第2教室】  
城東区今福西 2-16-8  
TEL.06-6931-2000  
【関目教室】  
城東区関目 4-6-17-2F・3F  
TEL.06-6934-8117  
【古市教室】  
城東区古市 3-21-8  
TEL.06-6931-0467



高木 秀章 (塾長)

## 読書の秋を親子で楽しむ! お勧めの本を2冊紹介します。

すっかり朝・晩は肌寒くなり、秋らしくなってきました。涼しくなり物寂しくなるせいか、不思議と静かに物思いにふけりたい気分になります。なるほど読書の秋とは上手くいったものです。静かな秋の夜に深夜まで本を読んでいると、何か深い海の底に一人でいるようで、それはそれでとても楽しい時間です。今回のGROWINGでは読書の秋にお勧めの本を2冊、ご紹介したいと思います。

#### お父さんお母さんにお勧め

##### AI vs.教科書が読めない子どもたち 新井紀子

今年の2月に出版された本で、ベストセラーになりましたので読んだ方も多いかと思います。しかし、敢えて、お勧めしたい一冊です。

著者の新井紀子さんは数学者であり、「ロボットは東大に入れるか(東口ボ君プロジェクト)」プロジェクトディレクターを勤められた方です。彼女がこのプロジェクトをスタートした目的は、AIはどこまでのことができるようになって、どうしてもできないことは何かを解明することでした。そうすることで、AI時代が到来したとき、AIに仕事を奪われないために人間はどのような力を持たなければならないのかが明らかになります。

このプロジェクトの結果として、東口ボ君は約50万人が受験するセンター試験の上位20%に入り、私立大学のMARCH(明治・青山・立教・中央・法政)関関同立(関西学院・関西・同志社・立命館)に合格できることを立証しました。つまり、ホワイトカラーを目指す若者の80%はAIに仕事を奪われる可能性があることと、元来計算機であるAIは圧倒的に読解力(意味を理解しコミュニケーションを取る力)が欠落している事が分かりました。

ただ、日本の中高生を対象に大規模な基礎的読解力の調査を行ったところ、彼らの多くの読解力がAI以下、中学校教科書の記述を正確に読み取るレベルに達していないことが分かりました。多くの仕事がAIに代替される時代、読解力の無い人間は失業せざるを得ない…。東口ボ君プロジェクトと中高生対象の大規模な調査結果、著者が示す最悪のシナリオとの中で生きていく術とは…。

日々の学習の中で、暗記・計算に逃げず、読解力を身に付けることが如何に大切かを考えさせてくれる一冊です。

#### 子供達にお勧め

##### ミライの授業 瀧本哲史

本の構成は子供達にもわかりやすく(著書の中には14才に向けた冒険の書とあります)、5つの授業に分かれ、各授業でそれぞれの時代の「ミライをつくる人達」が登場します。この本に出てくる「ミライをつくる人達」の中には、皆さんがよく知る人も、全く知らない人も出てきますが、「この人の凄さはここにあったのか!」という新たな気づきや、「なぜこんな人が知られていなかったのか!」という驚きが詰まっている本です。

私が、この本の中で印象に残ったのは、ナイチンゲール。彼女は「戦場の天使」、献身的な看護師としてのイメージが強いのですが、実は優れた統計学者として多くの命を救った人でした。戦死理由の多くが、戦闘によるものではなく、病院の劣悪な環境による感染症によるものであることを「コウモリの翼」と呼ばれる独自考案のグラフで1000ページにも及ぶ報告書で訴え、後の戦場や市民生活における衛生管理や、感染症予防に大きく貢献した人だったのです。彼女は看護の力ではなく、統計学の力で社会に貢献した人だったのは驚きです。

この他にも、男女平等を日本国憲法に明記することに貢献したベアテ・シロタ・ゴードンさんの物語も感動的です。男尊女卑で女性が虐げられてきた日本社会をたった一行のルールでひっくり返した女性です。GHQ草案の「国民主権」に関する文言ですら、一切認めなかった日本政府の姿勢を、GHQ側であり、憲法草案作成の唯一の女性参加者でありながら、日本に対する理解の深さ、献身的な態度により日本側の理解を得て、当時世界的にも類を見ない男女平等憲法を実現した姿には胸を打たれました。そして、彼女が若干22才でこの大仕事を成し遂げたのは驚きです。

19人の偉人達の話を読み終わった時には、ミライに向けて一步踏みだそう、もっと積極的に自分の可能性を試してみようと思える素晴らしい本です。

今回は保護者の方用、子供達用で計2冊の本を紹介しました。「AI vs.教科書が読めない子どもたち」は刺激的な内容ですが、ここから大学・高校の入試制度改定を見たとき、なぜ問題文量の増加や記述問題重視に受験がシフトしているか、つまり国も危機感を持って遅ればせながら対応を急いでいることが読み取れると思います。

また「ミライの授業」は、激変していく社会の中で、誰もがミライをつくる一人、ミライの担い手なのだというメッセージが込められた良書です。宜しければ保護者の方にも読んでいただき、子供達と将来について話し合う。そんな時間を楽しんでいただけたらと思います。





# Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

### 今福教室パスカル生 春先から7か月、大きく成長しました。

岡本 泰行 (今福・関目教室)

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。岡本です。この季節は仕事柄、そわそわしてくる時期でもあります。そうです、中学3年生は入試に向けてもう「待たなし」の時期に入ってきました。今は今福・関目の両教室を行ったり来たりしていますが、中学3年生の自習に来る子達が少しずつ増えてきたように思います。学力を伸ばすには、やはり自主的に動くということが必要になります。その一つが自習だと思います。自分で課題を見つけてそれに取り組む。そのシンプルな行動を続けて欲しいと思います。あと約半年です。時間は皆さんに平等に与えられています。その時間をどう使うのかは皆さんの意思次第です。自分でより良い人生を掴むために頑張らしましょう。



行動にも現れてきます。例えば、今まではふにやふにやっていたような子がしゃきと机に向かうようになり、小さい声でぼそぼそとしか挨拶できなかった子が元気よく「こんにちは」と挨拶してくれるようになりました。まずは粘り強く、何事にも取り組む。出来なくてもヒントをすぐにもらうのではなく考えてみる。ご家庭でもそのようなことを心がけていただければと思います。

各先生の過去の実践例や、自己の経験などから意見を出し合い、読書をさせるにも、いかに子供達が興味をもってその本に向かい合えるようにするか、また、そのような意味では漫画も選択の仕方によっては読解力の育成には有用ではないかという意見が出ました。



今回は今福教室のパスカルキッズについて書きたいと思います。毎年ですがこの時期に思うことは春に入塾した子供達は、見違える程大きく成長していることです。最初は鉛筆を持つのがやっとの子が、今では12-5や14-8などの計算をしっかりと行っていたり、能力開発のパズルが出来なくて「出来ない～」と言って拗ねていた子が今では、能力開発のパズルをどんどんやりたいと言ったり。学習に対しての取り組み方もどんどん意欲的になってきています。小さい子供達はやらせてあげて自分の力で出来たと実感できれば、次からはどんどん色々な問題や色々な事に挑戦しようとしてくれます。難しいことや、新しい事に挑戦して悩み、粘り強く考え、色々な工夫をしながらまた自分の力で出来るようになる。こういったサイクルを繰り返すことでどんどんと自信を持つようになり、その自信が



先日、今福教室でパスカルキッズのミーティングがありました。塾長から、これからのグローバル化やIT化が進む社会でどのような力が必要になるかの問題提起がありました。ミーティングの中で、様々なものが自動化する社会で必要な力は「理解力」や「コミュニケーション能力」ではないかという結論に達し、そこから、塾として子供達に「読み」「書き」の力をつける大切さとその方法について話し合いました。



春先からもう7か月が過ぎようとしています。子供達がこの7か月で様々な能力を身に付け新しくできることを増やす一方、大人の私は、新しくできるようになったことを思いつきません。そのように考えると、やはり、子供という時期は特別で、そのような時期の子供達に指導をする責任の重さを感じずにはられません。幼児期や低学年の子供達に、少しでも多くの学びや気づきを与えられるように、スタッフ全員で考えより良い指導を目指したいと思います。

# Education



## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

### 中学生時代に 「勉強の仕方を身につける」重要性

福井 幸司 (カイチ予備校・関目教室)



カイチ予備校がスタートして約半年が経ちました。開校当初はカイチの卒業生のみでしたが、今では予備校からの入塾生も頑張っています。指導していて最も感じていることを率直に述べると「羨ましい」の一言に集約されます。私が高校生頃の頃を思い出すと、例えば英語の長文和訳。知らない単語を辞書で全て調べ、さまざまな構文を参考にしても、上手に訳せない文章がたびたび出てきました。それでもそれ以上どうすることもできず、長時間かけて取り組んだ宿題を提出しても、赤であちこち訂正を入れられて返却される。当然評価点も低い。

また数学は授業でほとんど解説もされていない項目の難問を宿題に出され、手も足も出ないので類題を見つけて何とか解こうと考え、数種類の参考書から探しに探し、見つければ何とかありますが、見つからなければジ・エンド!

とにかく勉強に必要な時間が膨大で、高校

生になったばかりなのに、日付が変わる前に就寝できない日々。しかもこれだけの苦労の目的が「欠点を回避する」ためのもの。決して成績上位を維持するためなどではありませんでした。

カイチ予備校に通っている生徒達も程度の差はあれ、同様の悩みを抱えて奮闘中だと思います。しかし私が純粋に「羨ましい!」と感じているのは、私の現役時代の悩みが、カイチ予備校の生徒達は解決できるからです。

自分で辞書や参考書を調べて勉強するという努力や工夫は同じく必要です。しかしカイチ予備校には質問できる先生がいるため、どうすることもできずに闇雲に調べものをする時間をかけなくてよいのです。これは圧倒的な時間短縮になっています。その分意味のある勉強に時間をかけることができます。

カイチの学習部では「勉強の仕方を身につけさせる」というテーマが、小学部から貫かれています。勉強する習慣や学習方法を身につけることは必ず中学生までにやっておかなければなりません。



なぜならば高校生からは勉強すべきことが多様化するからです。中学生までは受験に必要な科目は同じと言っていいです。習う順番が異なることはあっても学年ごとに学習する内容は同じです。これらのことから、具体的なものを通して、ある程度一斉に細部まで指導することが可能なのです。だからこそ中学生の間に「勉強の仕方を身につけて」ほしいのです。小学高学年から中学生の期間は、そのことを習得できる絶好の時期であることをあらためて伝えたいと思います。高校生になれば、まず受験に必要な科目が多様になります。それどころか「習う・習わない」の違いすら生まれます。学年が同じでも勉強している科目が違うことも普通です。



つまり高校生からは一斉指導で細部まで具体的に指導することは難しくなるのです。もちろんカイチ予備校では、核となる部分はクラスで指導し、各人が別々に必要となる部分は個別に対応しています。それでも「勉強の仕方」が身につけている高校生になっていないと大変です。

現在、高校受験に向けて懸命に頑張っている中学3年生の皆さん。カイチでしっかりと勉強しておけば、高校進学後も自らの力でより高度な学習内容に立ち向かっていけます。今皆さんが取り組んでいることは、それだけの価値があることです。